

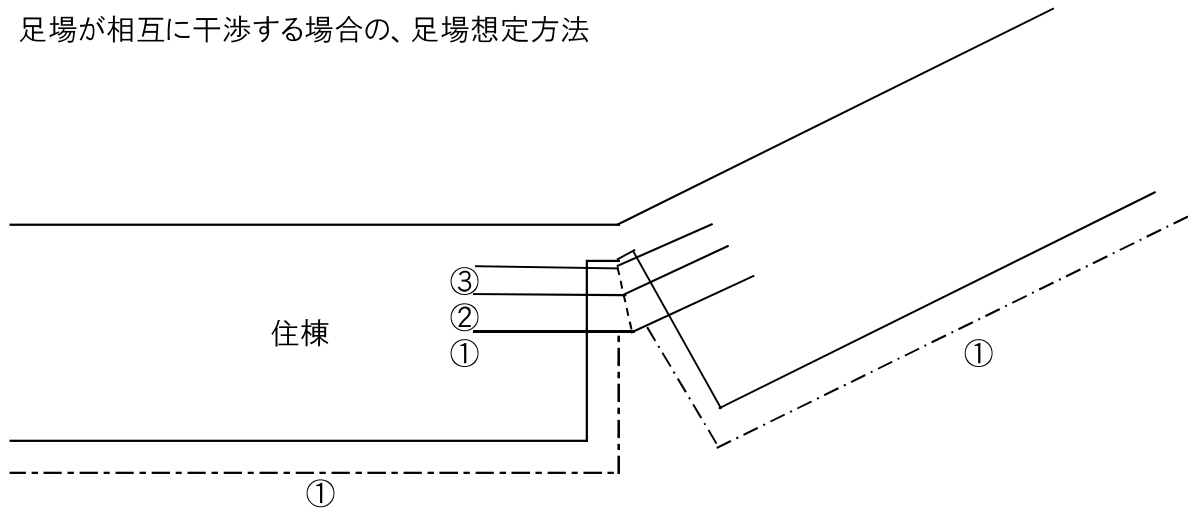
## Ⅱ 別紙資料

---

1. 直接仮設（外部足場）
2. 土工事（根切りの考え方）
3. コンクリート工事（基礎部の打設区分）  
（打設手間算出例）  
（ポンプ圧送費算出例）
4. 型枠工事（部位別の計上方法）
5. 鉄骨工事（溶接か所、工場加工組立関係）
6. 木工事（内装パネル張り大工手間の計測方法）  
（内装パネルの計測方法）
7. 解体撤去工事（とりこわし数量積算要領、発生材分別表）
8. 改修工事（直接仮設算出例）

1. 直接仮設  
(外部足場)

足場が相互に干渉する場合の、足場想定方法



- ①: 枠組み足場  
 ②: 枠組み足場 シングル  
 ③: 単管足場
- 建物間寸法(通芯) W-1300以上2000まで  
 W-1300未満

- 中層住宅及び高層住宅 (6 階以上)

$$\text{足場掛け面積} = 2 \times (\text{梁間 (m)} + 1.7 \text{ (m)} + \text{桁行 (m)} + 1.7 \text{ (m)}) \times \text{軒高 (m)}$$

- 低層住宅 (5 階以下)

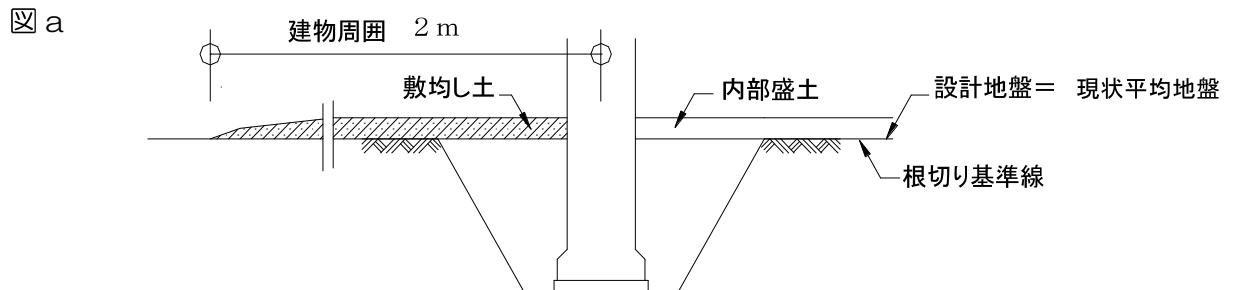
$$\text{足場掛け面積} = 2 \times (\text{梁間 (m)} + 1.4 \text{ (m)} + \text{桁行 (m)} + 1.4 \text{ (m)}) \times \text{軒高 (m)}$$

## 2. 土工事 (根切りの考え方)

■土工事の計測計算の根切り基準線は、次の区分による。

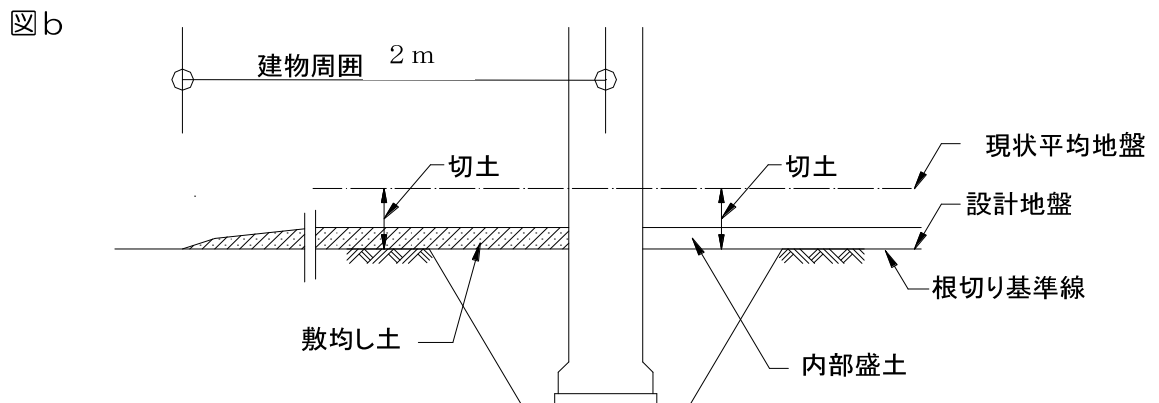
(1) 設計地盤が現状平均地盤と同じ場合

現状平均地盤 (= 設計地盤) を根切り基準線とする (図 a 参照)



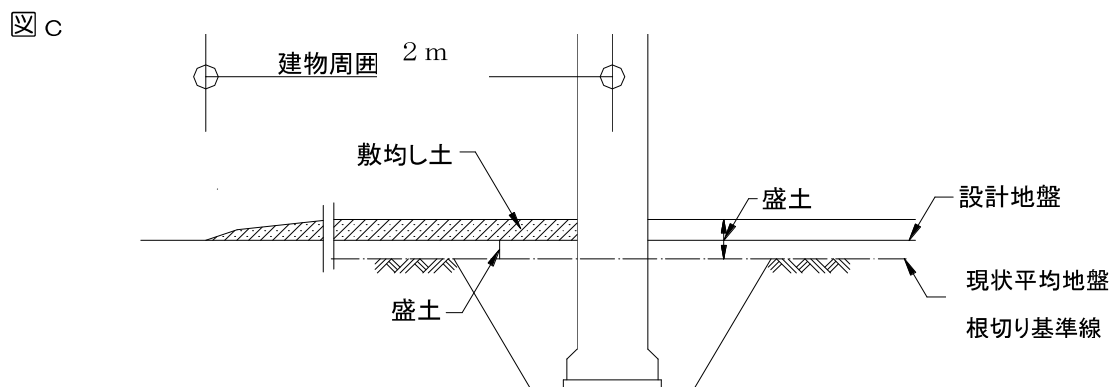
(2) 設計地盤が現状平均地盤より低い場合

設計地盤まで切土とし、設計地盤を根切り基準線とする。(図 b 参照)



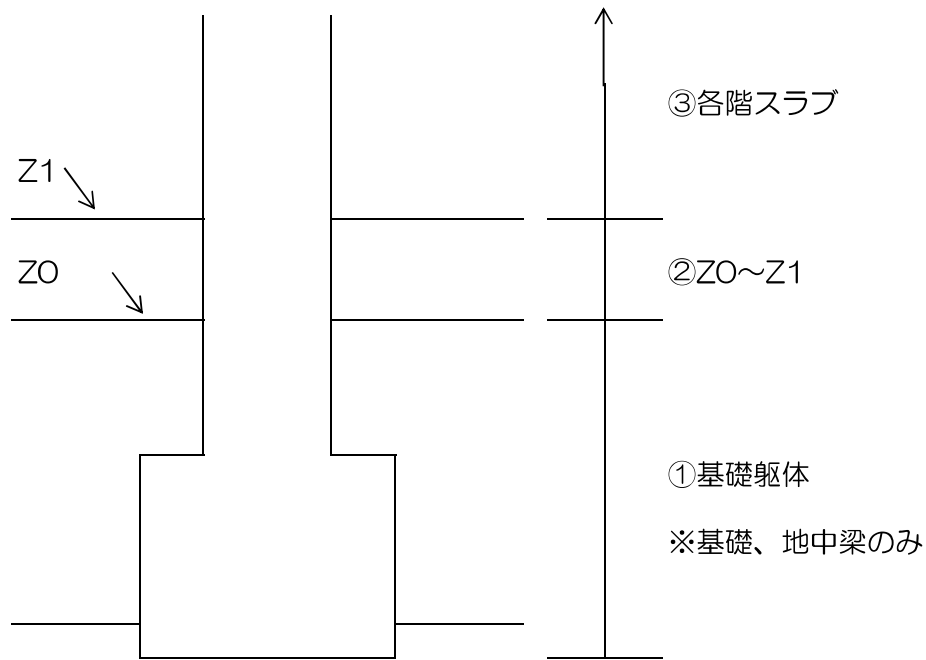
(3) 設計地盤が現状平均地盤より高い場合

現状地盤を根切り基準線とする。(図 c 参照)



【注】 主体として計上 → 建物壁又は柱芯から外周 2m 以内の範囲  
屋外として計上 → 上記以外の範囲

### 3. コンクリート工事 (基礎部の打設区分)



RC造 杭基礎、布基礎

#### (打設手間算出例)

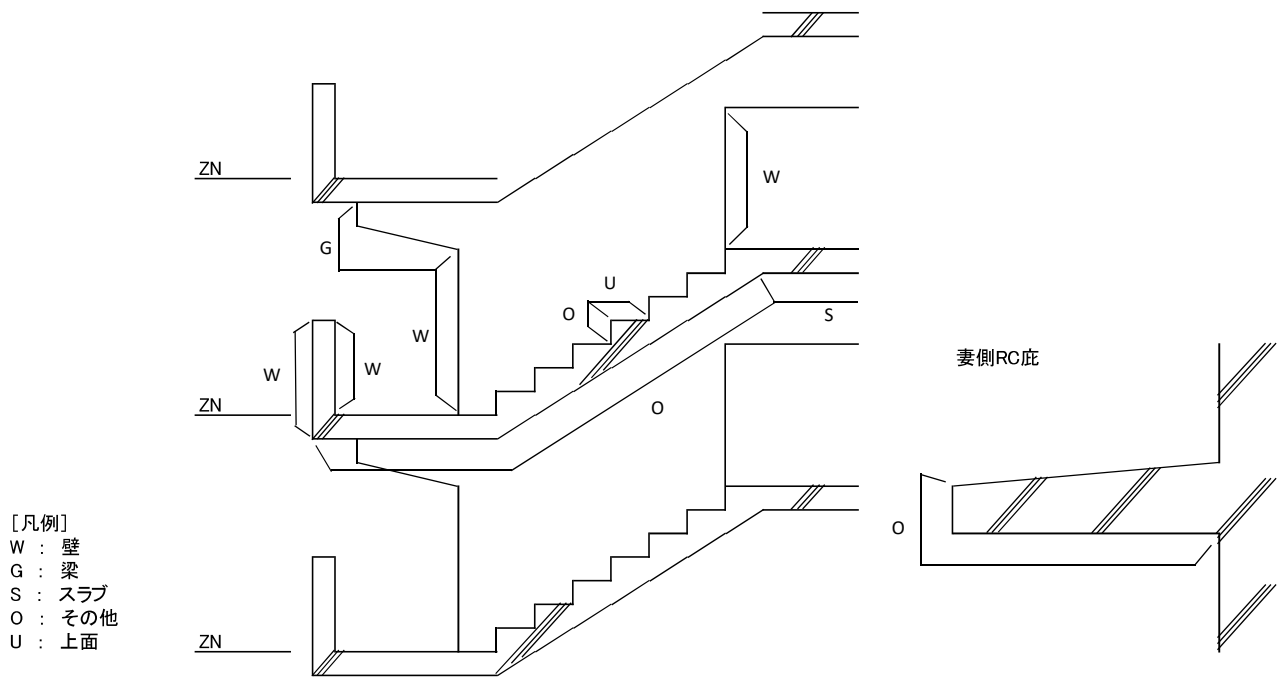
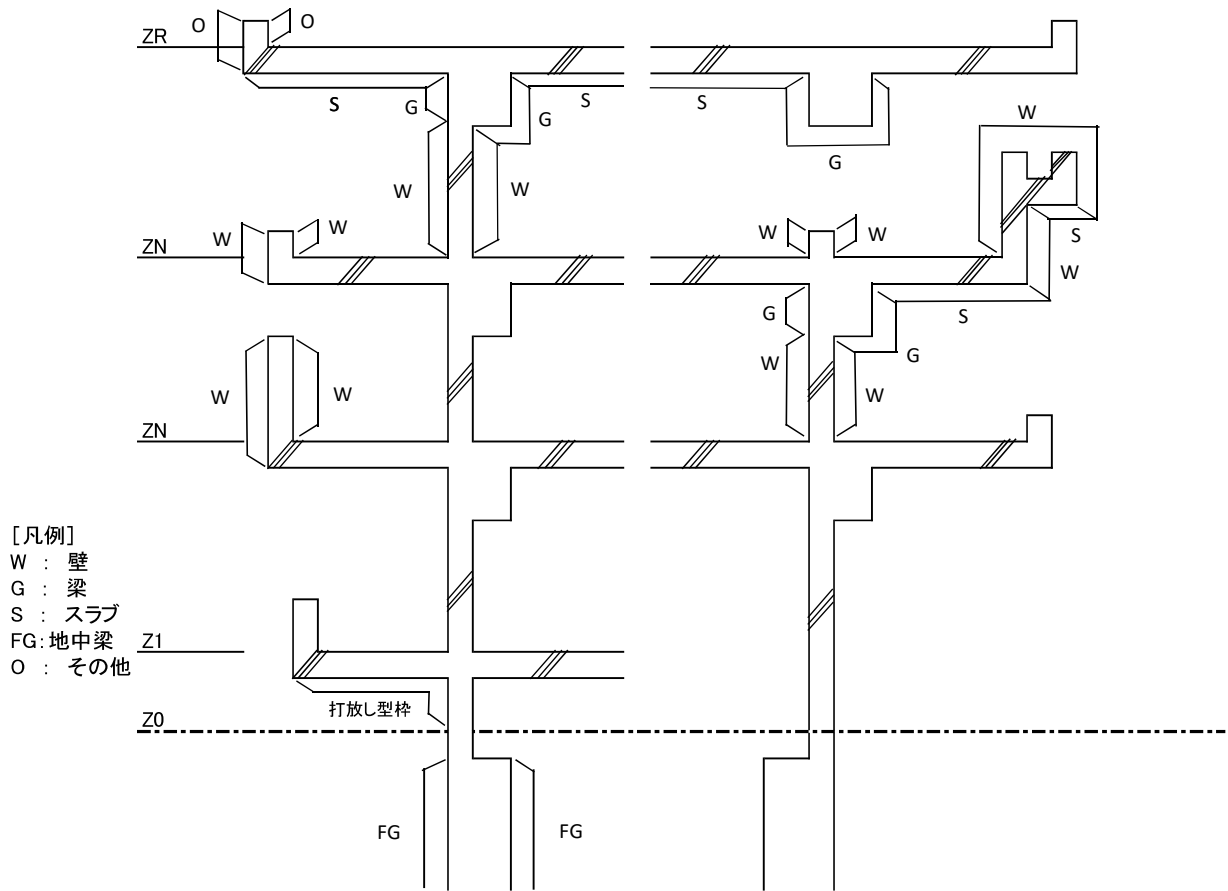
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
土間	ポンプ打設 30~50m <sup>3</sup> /回程度	15.1	m <sup>3</sup>	***	***	
捨て	人力打設	8.8	m <sup>3</sup>	***	***	
基礎底~地中梁天端	ポンプ打設 100m <sup>3</sup> 以上/回程度	201.3	m <sup>3</sup>	***	***	
地中梁天端~Z1	ポンプ打設 50m <sup>3</sup> ~100m <sup>3</sup> 未満/回程度	70.6	m <sup>3</sup>	***	***	
Z1~Z2	ポンプ打設 100m <sup>3</sup> 以上/回程度	182	m <sup>3</sup>	***	***	
Z2~Z3	ポンプ打設 100m <sup>3</sup> 以上/回程度	170	m <sup>3</sup>	***	***	
Z3~Z4	ポンプ打設 100m <sup>3</sup> 以上/回程度	170	m <sup>3</sup>	***	***	
...	...	...	m <sup>3</sup>	***	***	
Z10~ZR	ポンプ打設 100m <sup>3</sup> 以上/回程度	168	m <sup>3</sup>	***	***	
				小計	***	

(ポンプ圧送費算出例)

名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
コンクリートポンプ圧送費	50m3～100m3未満	161.9	m3	***	***	
コンクリートポンプ圧送費	100m3以上	1765	m3	***	***	
コンクリートポンプ圧送基本料金	50m3～100m3未満	2	回	***	***	
コンクリートポンプ圧送基本料金	100m3以上	11	回	***	***	
				小計	***	

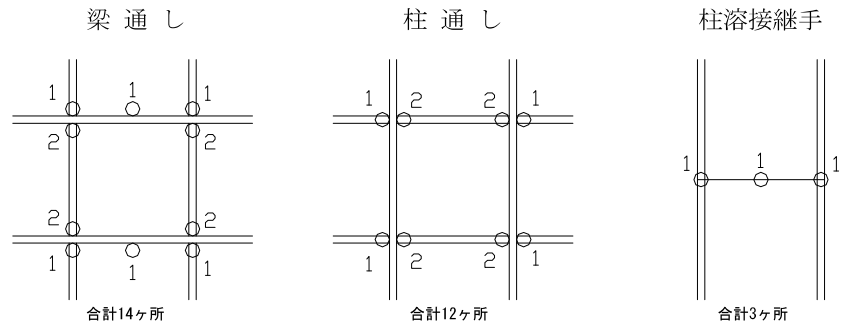
## 4. 型枠工事 (部位別の計上方法)

型枠の部位別の計上方法

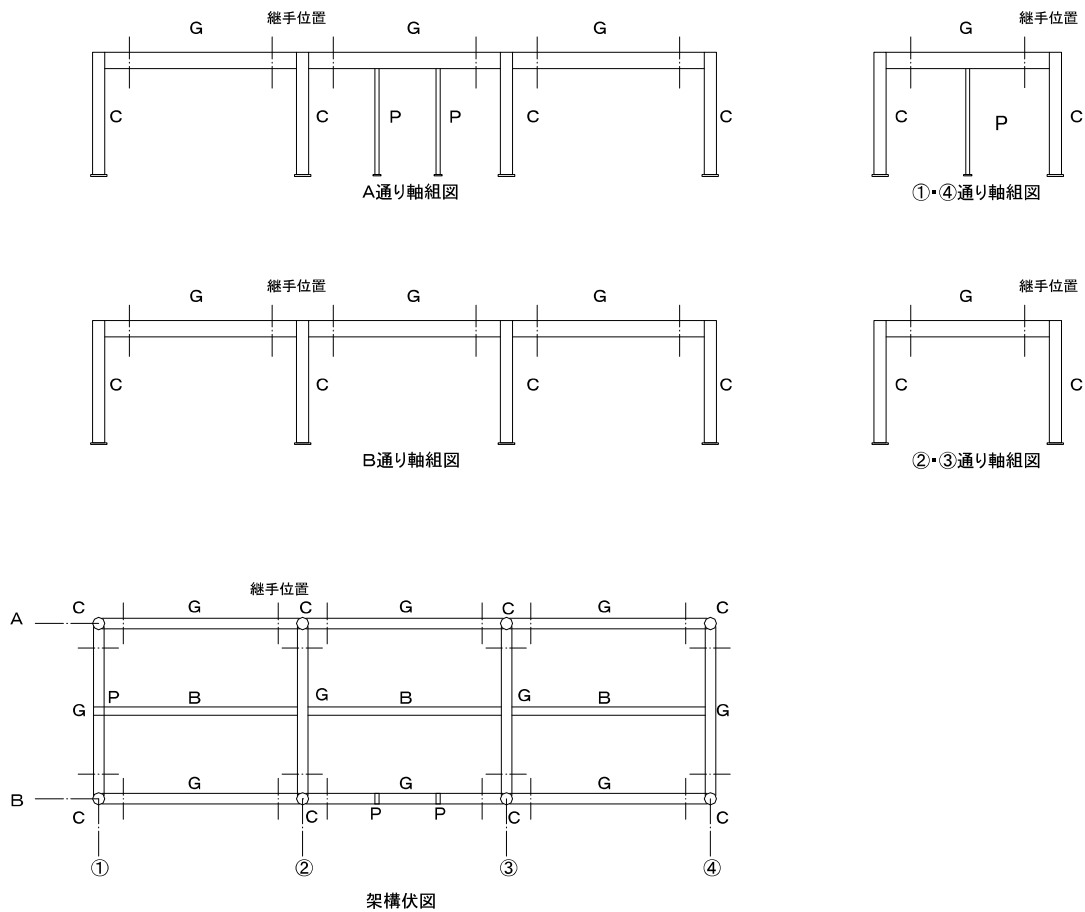


## 5. 鉄骨工事

(H型鋼の梁通し、柱通しの場合の一般的な仕口の溶接か所を次図に示す。○印の上を示した数字は溶接か所を示す。ただし、板厚9mm未滿は検査対象外とする。)



(工場加工組立で算出するH形鋼の部材数の計算例)



柱 (C)	=	8
梁 (G) (A・B通り)	9本×2 =	18
〃 (①~④通り)	3本×4 =	12
間柱 (P) (①~④通り、及びA・②~③通り)	=	3
小梁 (B)	=	3
部材数 計		<hr/> = 44 (本)

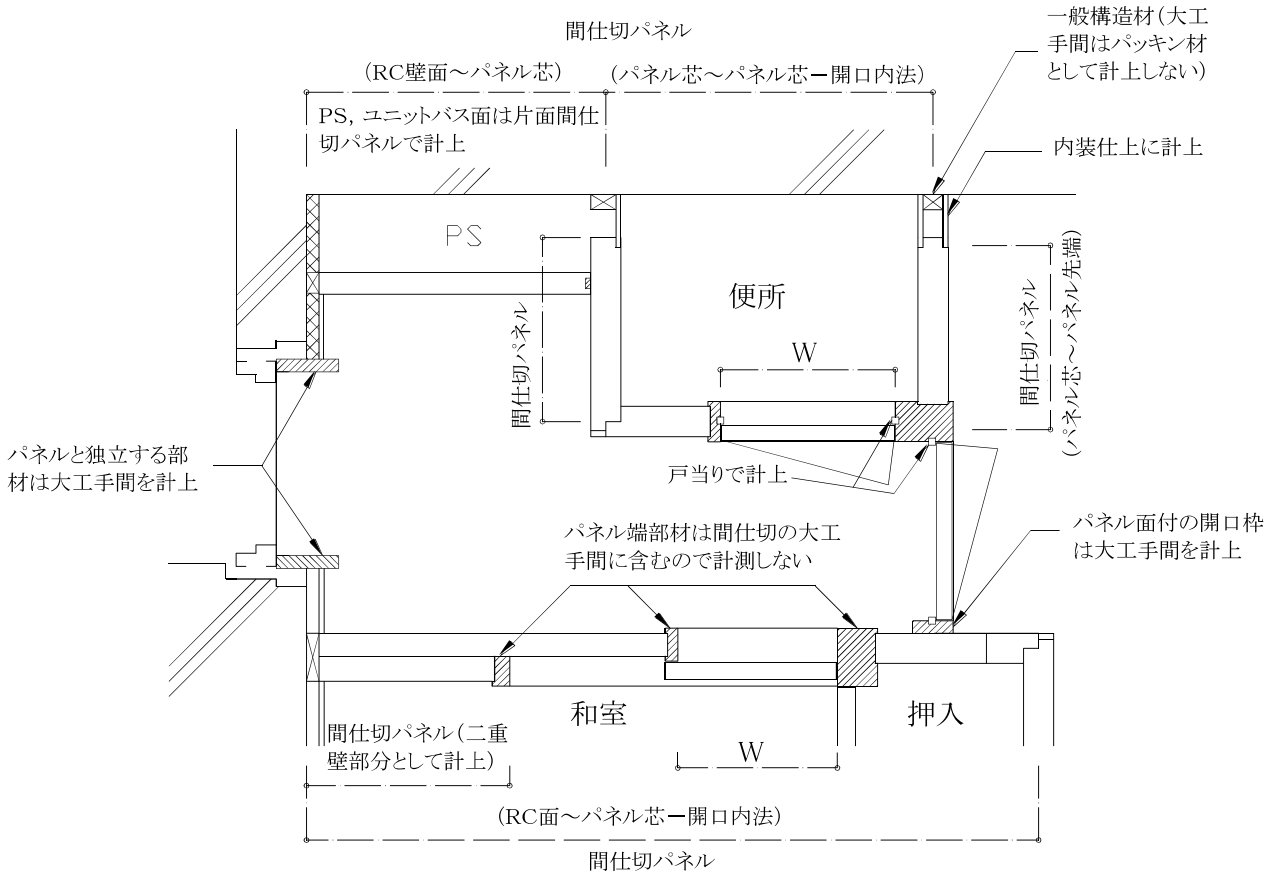
## 6. 木工事

(内装パネル張り大工手間の計測方法)

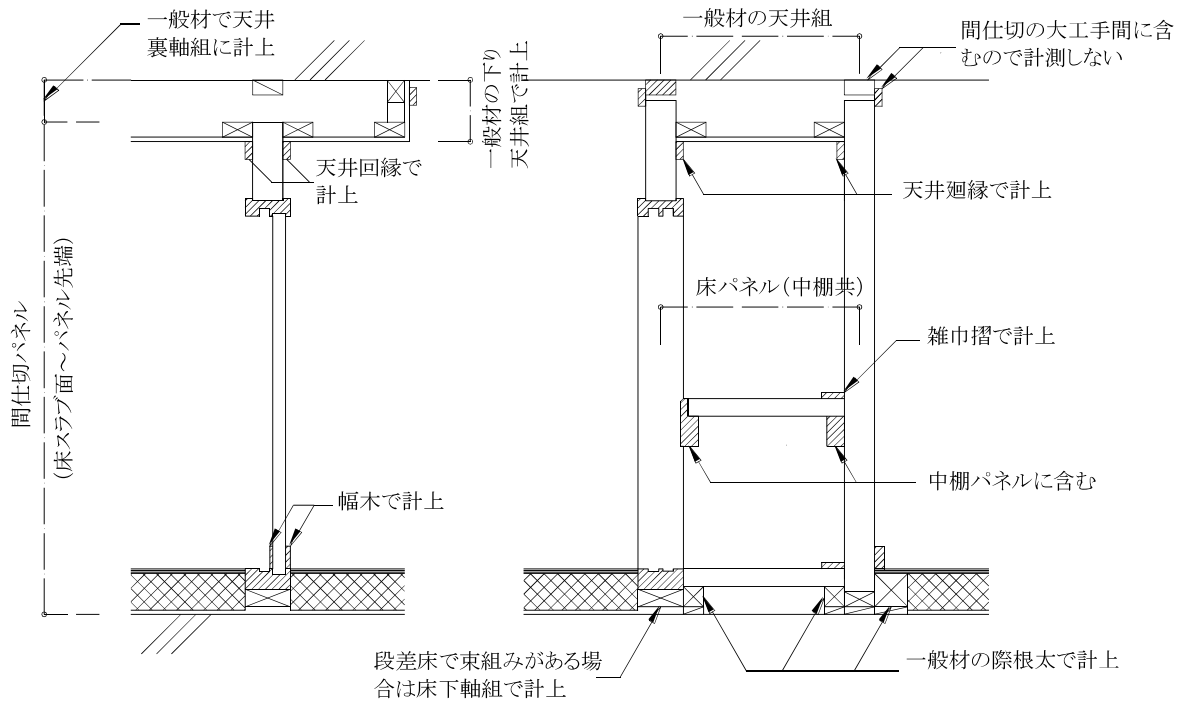
パネル端部に接続するパネル構成材（柱・開口枠・鴨居・廻縁等）はパネル取付費に含むので、計測の対象としない。

部 位	単 位	計 上 方 法
間仕切パネル	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>W×Hー開口内法面積 W=パネル芯又はパネル端部の間隔寸法 H=躯体の内法高さ寸法。ただし、天井内でパネルを止めている場合、及び床組みによるパネル止めがある場合は、スラブとの間隙寸法を除く。除外する部分は一般構造材の間仕切組又は床組みに計上する。</li> <li>片面パネル（押入部、ユニットバス部、PS部等）、二重壁部分を区分して計上する。</li> </ul>
床パネル	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パネル芯間面積（押入中棚も含める）</li> <li>中棚パネルの中框及び受材は床パネルに含むが、床面の一般構造材である際根太及び床パネル受材は、一般加工組立に計上する。</li> </ul>
棚パネル	m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パネル面積</li> </ul>
敷居、中鴨居、鴨居	本	<ul style="list-style-type: none"> <li>摘要欄に柱内法寸法を記入する。</li> <li>片引は（ ）内に開口寸法を記入。 〔例〕 L-1,720（L-820）</li> </ul>
開口枠	か所	<ul style="list-style-type: none"> <li>摘要欄にW×Hを記入し、パネル端部材の部分は破線、パネル面付部及びパネル以外に取付ける部分を実線とする、開口形状を表示する。</li> </ul>
柱、半柱		<ul style="list-style-type: none"> <li>パネルに接続しない柱を通し柱として計上する。パネルが部分的に接続する場合は、内法下、内法上の区分をして計上する。半柱は引戸部分とし、引戸以外は開口枠で計上する。</li> </ul>
他パネル部品	m	<ul style="list-style-type: none"> <li>パネル端部材以外の上框、床見切、幅木、畳寄せ、ボード寄せ、付け鴨居、額縁、補助手摺取付下地、戸当り、壁見切り、廻縁、クーラー受木、物入棚受木、調理台木見切り材等を計上する。</li> </ul>

## (内装パネルの計測方法)



## パネル平面



## パネル断面

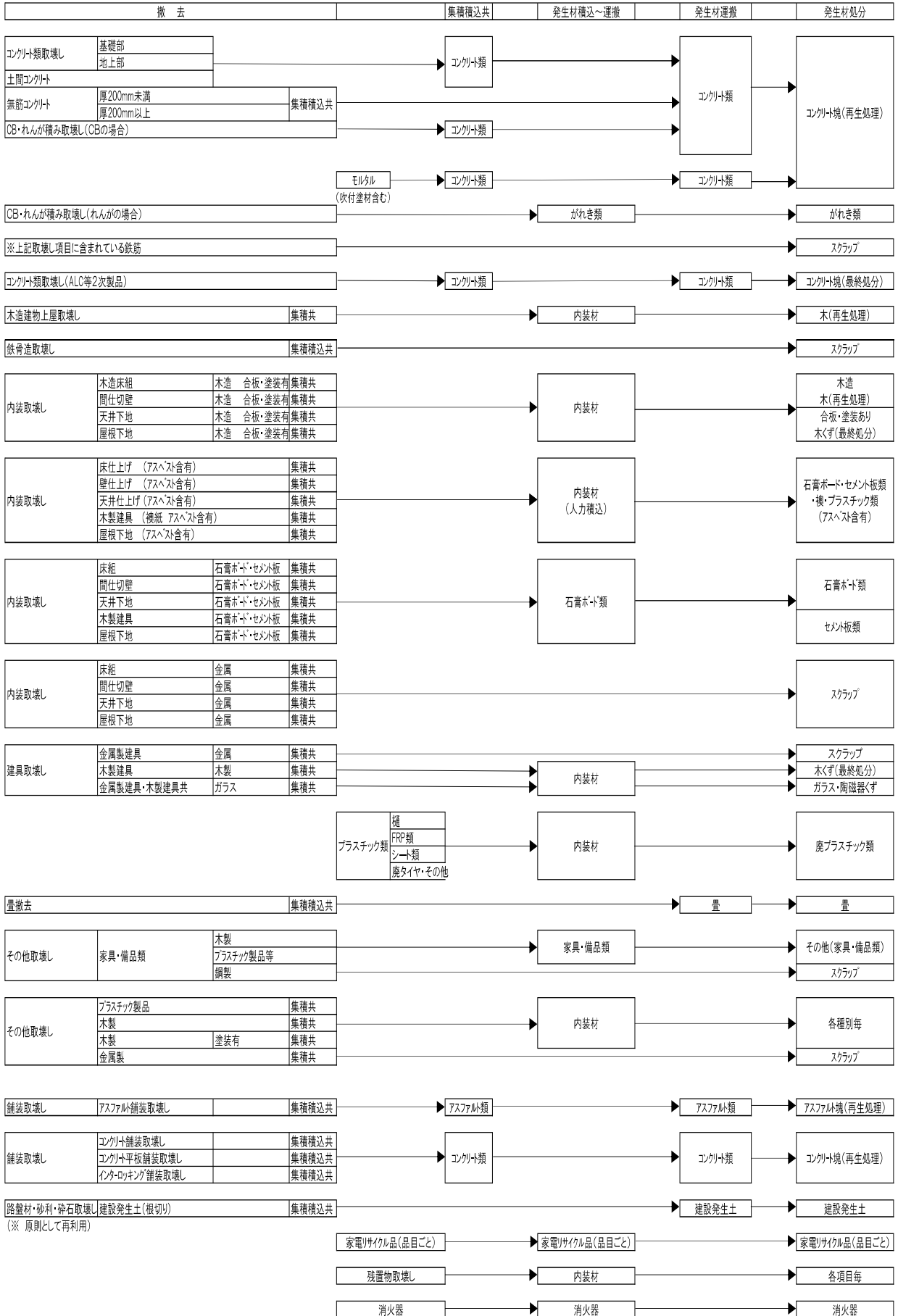
## 7. 解体撤去工事 (とりこわし数量積算要領)

とりこわし工事 数量積算要領

	発生材分類	内容	単位	数量積算
1	コンクリート塊、コンクリート及び鉄からなる建設資材	コンクリート、PC製品、コンクリート平板、CB、U字溝、会所、コンクリート製インターロッキングブロック、モルタル、軽量コンクリート	m <sup>3</sup>	・設計数量
2	アスファルトコンクリート塊	アスファルト舗装材	m <sup>3</sup>	・設計数量
3	木材	構造材、造作材、フローリング材、合板、繊維板、パーティクルボード、集成材、木製建具	m <sup>3</sup>	・設計数量
4	石こうボード	石こうボード、化粧石こうボード	m <sup>3</sup>	・設計数量
5	岩綿吸音板		m <sup>3</sup>	・設計数量
6	塩化ビニル管		m <sup>3</sup>	・呼び径×長さ ・重量も算出すること。
7	ALC板		m <sup>3</sup>	・設計数量
8	金属くず(スクラップ)			
	鉄	鉄筋・鉄骨	t	・設計数量 ・構造図が不備の場合、鉄筋はコンクリート1m <sup>3</sup> あたり100kgとして算出してもよい。
		軽量鉄骨下地(壁・天井)	t	・標準的な仕様の場合、3kg/m <sup>2</sup> とする。 ・開口補強は考慮しない。 ・特殊な建具の場合は個別に算出する。
		鋼製建具(扉・枠)	t	・標準的な建具重量の換算は以下の通り。 (ドア:25.43kg)(窓:14.13kg) ・特殊な建具の場合は個別に算出する。
	アルミ	アルミ製建具(扉・枠)	t	・標準的な建具重量の換算は以下の通り。 (ドア:5.18kg)(窓:4.86kg) ・特殊な建具の場合は個別に算出する。
ステンレス	ステンレス製建具(扉・枠)	t	・標準的な建具重量の換算は以下の通り。 (ドア:25.69kg)(窓:14.27kg) ・特殊な建具の場合は個別に算出する。	
9	木製建具		m <sup>3</sup>	・標準的な建具体積の換算は以下の通り。 (襖:0.004m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> ) (襖以外:0.014m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> ) ・襖紙にアスベスト含有の場合は、襖全体をアスベスト含有成形板とし区別して計上する。 (襖:0.004m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> )
10	塩ビシート、ビニルタイル		m <sup>3</sup>	・厚さ×設計数量 ・アスベスト含有成形板は区別して計上する。
11	ガラス及び陶器くず	タイル	m <sup>3</sup>	・厚さ×設計数量
12	セメント板	石綿セメント板、石綿スレート板、押出し成形繊維強化セメント板	m <sup>3</sup>	・厚さ×設計数量 ・アスベスト含有成形板は区別して計上する。
13	繊維くず	じゅうたん、畳	m <sup>3</sup>	・設計数量
14	家具・備品類		m <sup>3</sup>	・縦×横×高さ
15	がれき類	レンガ、スレート瓦	m <sup>3</sup>	・設計数量
16	廃タイヤ		m <sup>3</sup>	・見付体積
17	外壁仕上塗材	アスベスト含有	式	・一式見積
18	設備器材		—	・電気、設備担当との拾い区分(指示)による。
19	その他	上記のいずれにも該当しないもの	m <sup>3</sup>	・少量の雑材は計算しない。
20	建設発生土		m <sup>3</sup>	・設計数量

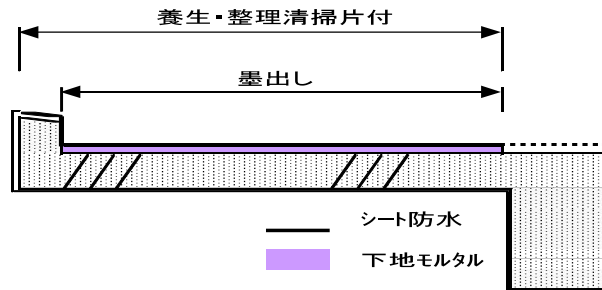
# (発生材分別表)

発生材分別表

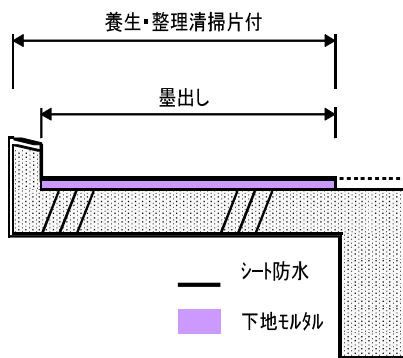


## 8. 改修工事

(直接仮設算出例)



墨出し 水勾配を調整する平場面積とする。  
 養生 塗膜・シート防水を改修する平場面積とす  
 整理清掃片付 塗膜・シート防水を改修する平場面積とす



墨出し 水勾配を調整する平場面積とする。  
 養生 塗膜・シート防水を改修する平場面積とする。  
 整理清掃片付 塗膜・シート防水を改修する平場面積とする。